

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 生徒のニーズに合った教育課程を実践していますか。	① 少人数制指導や習熟度別指導などのきめ細かな指導に満足している生徒が75%以上である。	少人数制や習熟度別、ティームティーチング(TT)による授業を積極的に取り入れると共に、指導の方法や内容を評価検討し改善する。 各コースの特徴を生かした教育課程の編成に努める。また専門教科・科目の授業内容を検討工夫して魅力あるものにする。	A	A	今後とも少人数指導や習熟度別授業などのきめ細かな指導を継続して実践する。	A	A	今後とも教育課程の改善を図り、少人数指導や習熟度別授業について、きめ細かな指導を実践する。
		② コース別の特色ある学習活動に満足している生徒が75%以上である。		各コースの特徴を生かすような授業内容・学習活動を検討し、改善する。	A	A	豊かな体験活動や地域学習ができるような教材を考え、生徒が興味や関心を高めることができるようにする。	A	B
	2 地域に根ざした学習活動は充実していますか。	③ 豊かな体験活動や地域の自然、文化・歴史などの学習に興味を持ち、面白いと考えている生徒が75%以上である。 ④ 地域の伝統文化を尊重するいろいろな活動により、伝統文化に関する理解が深まったと考える生徒が75%以上である。	学習活動に盛り込む体験活動や地域の自然や文化について、興味や関心を高める教材を工夫研究して授業に反映させる。 地元 住民の方に講師をお願いしたり、体験的創作的な要素を盛り込み、より身近なものとして展開する。	C	B	地域の伝統文化に関して理解が深まるような体験的活動を検討し実践する。	A	B	講師や体験的活動を通じて、地域の伝統文化に直接触れることができるようにする。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 交流授業や授業公開を行った教科が全体の80%以上である。	中高 双方向での交流授業や出前授業を各教科で計画し、積極的に実施する。	-	-	各教科で中学と連絡を取り合い、交流授業や出前授業の計画を立てる。	A	-	今後とも、各教科で交流授業や出前授業等、積極的にを行う。
		5 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 各種の学習活動に対して、達成感や成就感を感じている生徒が75%以上である。 ② 毎日の「朝読書」に真面目に取り組んでいる生徒が75%以上である。 ③ 授業が分かりやすいと感じている生徒が75%以上である。 ④ 基本的な学力が付いてきたと実感する生徒が75%以上である。 ⑤ 検定合格や各種資格の取得を目指して積極的に取り組んでいる生徒が各コースとも75%以上である。	一人ひとりの生徒に対応した、丁寧で興味を引き出す授業の実践と教材を工夫する。 図書部とも連携し、読書の面白さや有用性を実感させる。 生徒個々の特性と目標を把握した上で授業や補習を行うと共に、授業見学や研究授業により授業力の向上を図り、基礎的基本的な学力の確実な定着と向上を図る。 検定、資格取得の意義を理解させ、放課後の補充指導などを充実する。	A	D	活動や学習の内容、狙いを明確にするとともに、手順や段階のある指導を行うように工夫する。 今後とも、読書の面白さや有用性を実感させる。	A	C
	6 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 生徒の状況把握と指導方針を検討する機会を月に3回以上設けている。 ② 毎日の学校生活の中で、挨拶をしっかり行っていると思う生徒が75%以上である。 ③ 年間の欠席率を前年度数値より0.5%減らす。 ④ 毎日規則正しい生活を送っていると思う生徒が75%以上である。	学年をはじめ、生徒指導部やガバンス相談部で、生徒の状況や情報を集め共有し、連携して指導にあたる。登校時の挨拶運動を1年間実施すると共に、授業等での声かけや挨拶指導に心掛ける。 電話連絡や家庭訪問を行う中で家庭の理解と協力を得て、特に怠情による欠席を防止する。 保健部や生徒、進路指導部と連携し、「たより」や集会などで繰り返してその重要性を説明していく。	A	-	生徒指導会議を出来る限り設けて生徒指導に関する情報の共有、適切な指導に努める。授業時の挨拶や校内での挨拶の徹底に取り組んでいく。	A	-	生徒に関する情報を生活指導係、学年、ガバンス相談部が共有し適切な指導に当たる。生徒の社会性、コミュニケーション能力の育成として「挨拶」に力を注ぎ、成果も表れてきた。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 企業・学校見学を有意義だと思う生徒が75%以上である。 ② インターンシップに参加し、有益な体験であるとする生徒が75%以上である。	キャリア教育の意義を理解させ、企業や学校の協力を得て企画の内容を検討し充実したものにする。 計画的組織的に企画立案すると共に、事前事後学習などを充実させ実効の上がるように工夫する。	A	A	今後とも、企画を検討して充実したものにする。	A	A	2学期末までの欠席率は前年比で1%減少。今後も継続的に指導する。
		8 体験的・計画的な指導を行っていますか。	③ 自分の適性を理解しているとする生徒が75%以上である。 ④ 進路希望を実現する生徒が80%以上である。	面談や性格検査、体験的な活動等を通して自己を理解し適性を把握できるように指導する。 面談や保護者との連携を密にして、生徒の適性と将来を見据えた指導を組織的に展開する。	D	C	面談の実施及び家庭と連携協力して、基本的な生活習慣の育成に努めていく。	D	B
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	① 「学校公開」や「公開授業」を年3回以上実施している。 ② 学校の運営方針や生徒の様子がよく分かると思う保護者が75%以上である。 ③ 図書館や体育館などの学校施設を月3回以上開放している。	公開授業、1日体験入学及び学校評議員会などを有効に活用する。 「学年便り」を家庭向けに年20回以上発行する。また、学校ホームページ及び携帯サイトのコンテンツを充実させる。 回覧板や地域の有線放送等を利用して広報に努める。	A	-	今後とも、企画を検討して充実したものにする。	A	A	77%の生徒が有意義だと考えているので今後も企画、内容を検討し実践する。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	① 「学校公開」や「公開授業」を年3回以上実施している。 ② 学校の運営方針や生徒の様子がよく分かると思う保護者が75%以上である。 ③ 図書館や体育館などの学校施設を月3回以上開放している。	公開授業、1日体験入学及び学校評議員会などを有効に活用する。 「学年便り」を家庭向けに年20回以上発行する。また、学校ホームページ及び携帯サイトのコンテンツを充実させる。 回覧板や地域の有線放送等を利用して広報に努める。	-	C	事前事後学習を通してインターンシップの意義を理解させ有益なものにする。	A	A	80%の生徒が有意義であると考えているので今後も充実させ有益なものにする。
		9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	③ 自分の適性を理解しているとする生徒が75%以上である。 ④ 進路希望を実現する生徒が80%以上である。	面談や性格検査、体験的な活動等を通して自己を理解し適性を把握できるように指導する。 面談や保護者との連携を密にして、生徒の適性と将来を見据えた指導を組織的に展開する。	D	D	自己理解の方法などを検討し適性が分かるような指導を研究し、実施していく。 面談や家庭と協力して進路実現ができるようにする。	D	D
	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	① 「学校公開」や「公開授業」を年3回以上実施している。 ② 学校の運営方針や生徒の様子がよく分かると思う保護者が75%以上である。 ③ 図書館や体育館などの学校施設を月3回以上開放している。	公開授業、1日体験入学及び学校評議員会などを有効に活用する。 「学年便り」を家庭向けに年20回以上発行する。また、学校ホームページ及び携帯サイトのコンテンツを充実させる。 回覧板や地域の有線放送等を利用して広報に努める。	A	-	今後とも、開かれた学校づくりを積極的に推進する。 配布物を家庭に持ち帰る指導を徹底すると共に、学校ホームページや携帯サイトの積極的な活用を呼びかける。 今後とも、学校施設を地域に開放し、積極的に広報を行う。	A	-	今後とも、開かれた学校づくりを継続して推進する。 家庭、地域社会に対して学校情報を、きめ細かく伝えることができるような方法を研究し、活用できるようにする。 今後とも広報活動を継続するとともに、学校施設を地域に開放できるようにする。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	① 「学校公開」や「公開授業」を年3回以上実施している。 ② 学校の運営方針や生徒の様子がよく分かると思う保護者が75%以上である。 ③ 図書館や体育館などの学校施設を月3回以上開放している。	公開授業、1日体験入学及び学校評議員会などを有効に活用する。 「学年便り」を家庭向けに年20回以上発行する。また、学校ホームページ及び携帯サイトのコンテンツを充実させる。 回覧板や地域の有線放送等を利用して広報に努める。	-	-	今後とも、開かれた学校づくりを積極的に推進する。 配布物を家庭に持ち帰る指導を徹底すると共に、学校ホームページや携帯サイトの積極的な活用を呼びかける。 今後とも、学校施設を地域に開放し、積極的に広報を行う。	A	-	今後とも、開かれた学校づくりを継続して推進する。 家庭、地域社会に対して学校情報を、きめ細かく伝えることができるような方法を研究し、活用できるようにする。 今後とも広報活動を継続するとともに、学校施設を地域に開放できるようにする。
		9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	③ 自分の適性を理解しているとする生徒が75%以上である。 ④ 進路希望を実現する生徒が80%以上である。	面談や性格検査、体験的な活動等を通して自己を理解し適性を把握できるように指導する。 面談や保護者との連携を密にして、生徒の適性と将来を見据えた指導を組織的に展開する。	-	-	自己理解の方法などを検討し適性が分かるような指導を研究し、実施していく。 面談や家庭と協力して進路実現ができるようにする。	A	-
	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	① 「学校公開」や「公開授業」を年3回以上実施している。 ② 学校の運営方針や生徒の様子がよく分かると思う保護者が75%以上である。 ③ 図書館や体育館などの学校施設を月3回以上開放している。	公開授業、1日体験入学及び学校評議員会などを有効に活用する。 「学年便り」を家庭向けに年20回以上発行する。また、学校ホームページ及び携帯サイトのコンテンツを充実させる。 回覧板や地域の有線放送等を利用して広報に努める。	A	-	今後とも、開かれた学校づくりを積極的に推進する。 配布物を家庭に持ち帰る指導を徹底すると共に、学校ホームページや携帯サイトの積極的な活用を呼びかける。 今後とも、学校施設を地域に開放し、積極的に広報を行う。	A	-	今後とも、開かれた学校づくりを継続して推進する。 家庭、地域社会に対して学校情報を、きめ細かく伝えることができるような方法を研究し、活用できるようにする。 今後とも広報活動を継続するとともに、学校施設を地域に開放できるようにする。